

数々の集落から見える成功への 「転換点」



兵庫県立大学
山端 直人

自己紹介

山端 直人
兵庫県大／兵庫県森林動物研究センター

農林水産省⇒三重県庁⇒現職

専門:「農村計画」「アクションリサーチ」
「野生動物の被害管理」

～社会調査、集落づくり、被害防除、捕獲、政策提案まで～

集落や地域で獣害の改善方法を「提案」し「課題解決」を図る実践
～年間で20集落、累計約300の集落で実践～



研究・教育と、被害現場や行政機関との「実践」が自身の強み



集落の合意形成手法や政策提案(ご要望あれば要請ください)

解 題

農林水産省では獣害対策の 社会モデルづくりを進めてきている (社会モデルの構築は地域政策に共通する取り組み)

農村振興局長賞（被害防止部門（団体））

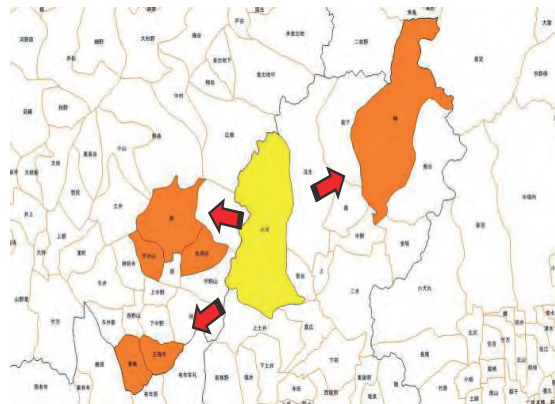
農林の自主的な取組による侵入防止柵の設置や全戸出役による点検管理に加え、緩衝帯の整備やICT等を活用した集落ぐるみの捕獲の取組により被害を大きく軽減。

相生市矢野町小河集落
(総代：勝谷 秀史) 兵庫県相生市

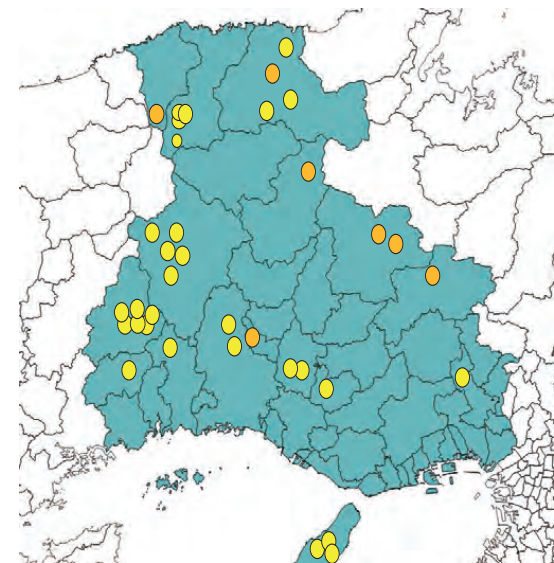
主な取組

- 平成10年代にイノシシ、シカによる水稲の被害が深刻化。個人で対策を行っていたが、営農組合で話し合った結果、平成13年に集落全体を囲う電気柵導入。また、平成23年には、電気柵ではイノシシ・シカの侵入を防げなかったことから、集落全戸出役によりワイヤーメッシュ柵に再整備。
- 柵の点検は集落全戸を3組に分け、月1〜2回点検。補修を実施。平成30年度からは年に1度大幅なワイヤーメッシュ柵の補強を実施。柵の設置や点検・補修に当たっては、地権者から負担金を徴収し、資材費や労務費に充当。
- 侵入抑制効果を上げるため、県単独事業を活用し、平成21・28年度に緩衝帯を整備。
- 柵が整備できない道路、河川からの侵入を防止するため、平成29年に営農組合に狩猟管理部門を設置。狩猟免許取得への支援をするともに、国の事業を活用しセンサーカメラやICTを活用した柵の設置による捕獲体制を整備。
- 柵の整備・点検と捕獲の組み合わせにより、捕獲頭数が増加し、被害金額が大幅に減少。近隣の集落へも取組が波及。

【相生市】
被害金額 平成29年度：329万9千円 → 令和元年度：5万9千円
捕獲頭数 平成29年度：10頭 → 令和元年度：36頭



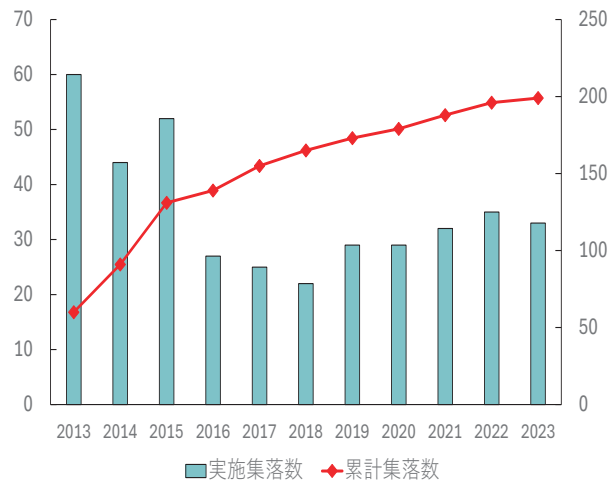
兵庫県も多くの集落で(多種の事業で) 「地域主体の獣害対策」を進めている



兵庫県は15年の間、継続して集落の支援事業を実施(山端2025)

実施集落数/年

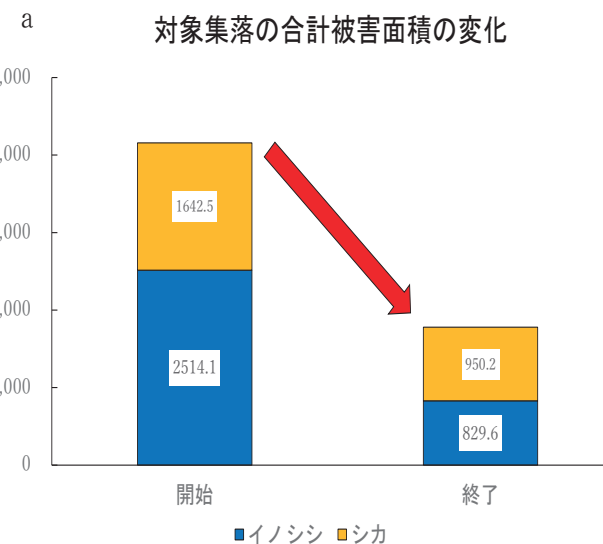
累計実施集落数



兵庫ワイルドライフモノグラフ17号より

累計で200集落におよぶ

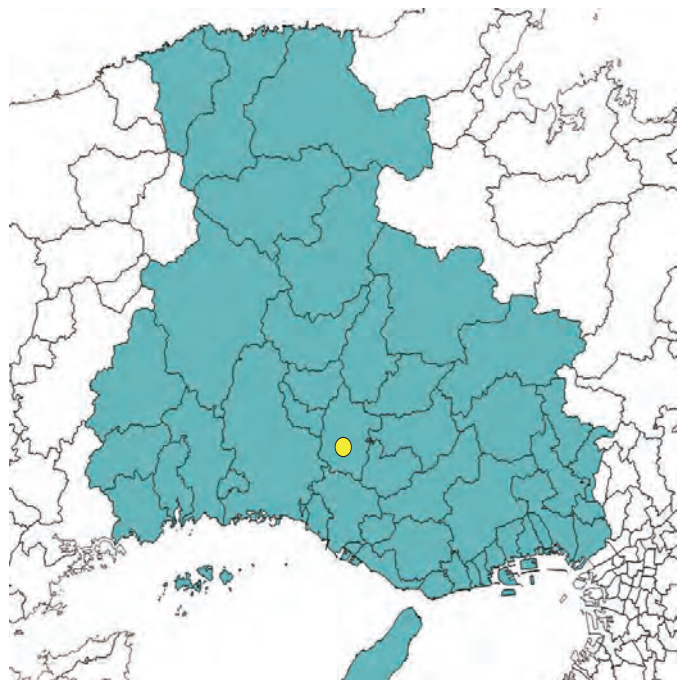
支援対象集落の被害面積は半減(山端2025)



兵庫ワイルドライフモノグラフ17号より

「獣害対策」の モデル的な例

兵庫県支援事業の1例

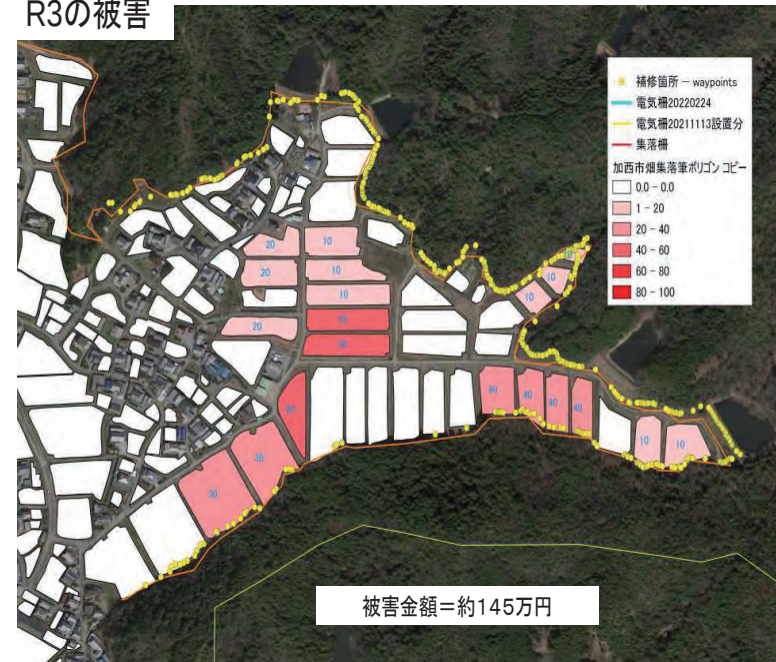


加西市畑集落 (畑第一営農組合)





R3の被害



300か所もの補修箇所、全滅の農地もあるほど被害は「深刻」

モデル集落として支援



1 住民主体の獣害対策モデル地区 取組手順

(1) 関係者による課題の発見



- ・被害状況の確認及び獣害対策チーム内で課題を共有
- ・センサーカメラの設置により有害鳥獣の出没状況を調査

(2) 集落の役員会で提案



- ・集落の役員、各営農組合役員等の集落代表者を対象に獣害対策の基本について研修
- ・下見で撮影したセンサーカメラの映像を利用して、集落内での有害鳥獣の出没状況を説明
- ・モデル地区の取組内容、手順について説明

19

(3) 現地研修会（集落点検）及びワークショップ



- ・住民に対して獣害対策研修後、各営農組合ごとに分かれて集落点検を実施
- ・集落点検により見えてきた課題をワークショップにより整理

20



ワークショップにより「課題」と「すべきこと」が共有できる

21

問題・課題	解決策・案
柵のない場所がある (囲われていない)----- いんがいの樹木が 繁り過ぎて管理でき ない 他農家の連帯ができて いない(柵の設置等) 柵の点検の頻度が 少ない(修理に手回 らない) ××× 猪の捕獲後の処理 に町の風習などの抵抗 がある	①柵の保守・点検 (猪でなく見逃し、出合い作来) ・いんがいの樹木 ・いんがいの樹木を ・いんがいの樹木を ・いんがいの樹木を ②柵の設置 (管理見守り) → (本年) 必要 点検日を決める ③柵の点検 (点検) → (本年) 必要 点検日を決める ④柵の点検 (点検) → (本年) 必要 点検日を決める ⑤柵の点検 (点検) → (本年) 必要 点検日を決める 柵の費用の補助 柵の外(いんがいの樹木 の伐採) → (本年) 必要 点検日を決める 猪の処理

個人で取り組む課題、町や営農単位で取り組む課題、行政の支援を受けて取り組む課題に整理し解決方法を共有

22



集落が**主体で捕獲**を実施(捕獲技術は市や県事業で支援)



集落が**主体で捕獲**を実施(捕獲技術は市や県事業で支援)



新たな技術も用いて**防護柵の補強**



フェンスやW・M柵の**外周下部に電気線を1段設置**(心理柵+物理柵)

新たな技術も用いて防護柵の補強



営農組合で設置・管理、稲の登熟期はこまめに見回り

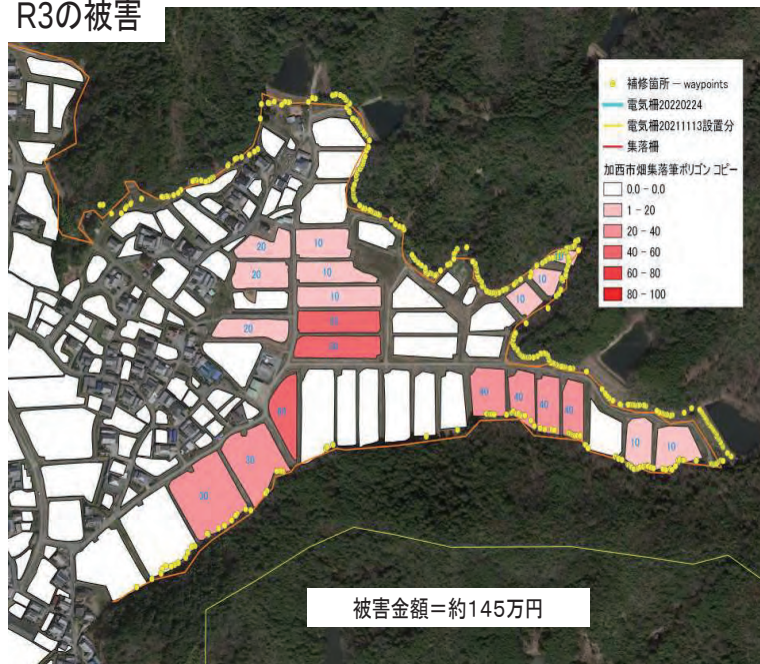


集落、営農組合員と関係機関が情報共有

「護る」
「獲る」
「共有する」

獣害対策の全てです

R3の被害



300か所もの補修箇所、全滅の農地もあるほど被害は「深刻」

R4の被害



金網の補修箇所はゼロ、農地の被害もゼロ(隣接集落からの侵入はある)

今年度の被害は「無かった」

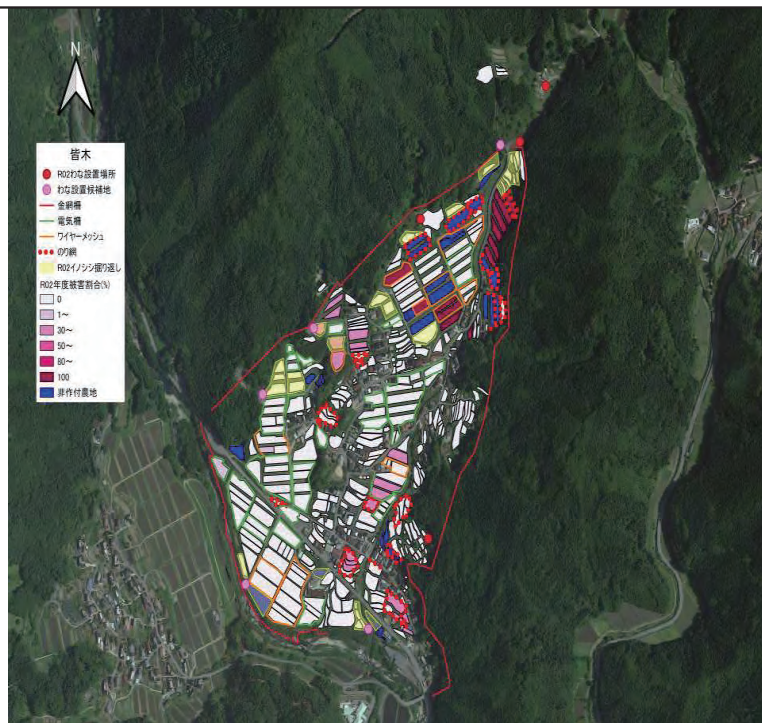
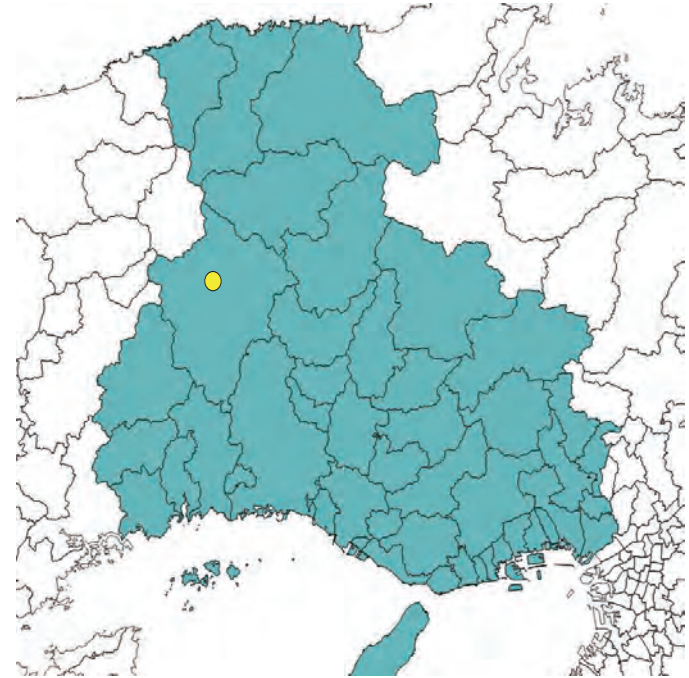


獣害対策を頑張るわけは？



穴栗市皆木集落

箱ワナ、くくりワナも用いた
集落主体の捕獲モデル



集落柵で護って...



柵の補修や補強も努力している

電気柵でも補強



巡回研修時には柵の管理研修も実施

「地域が主体的に」獲る・・・



集落でカメラ(技術の有効活用)も確認しながら捕獲技術を向上

加害個体を獲る・・・



集落で分担して檻・ワナの管理→捕獲向上

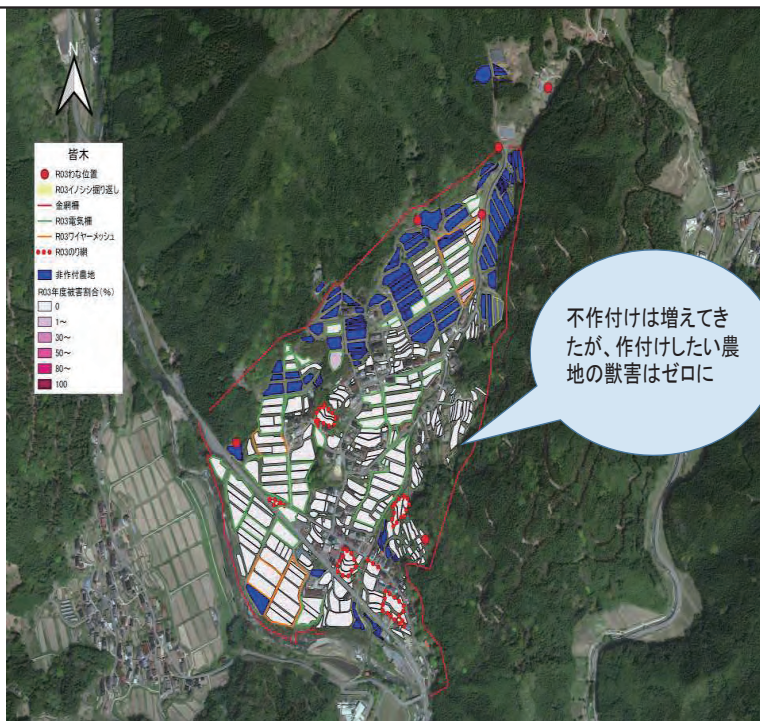
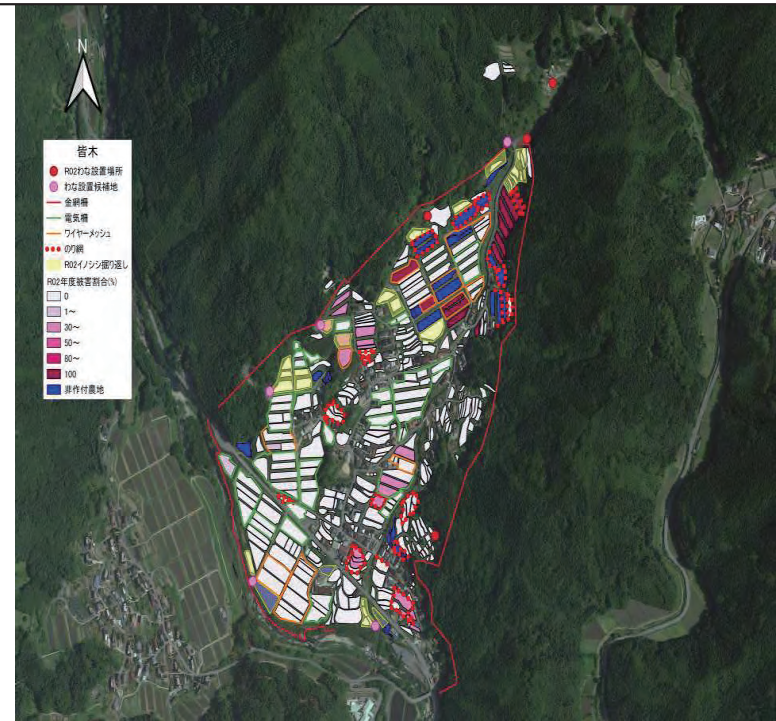
それを集落で共有する



LINEグループで集落が連携しつつ獣害対策

「護る」 「獲る」 「共有する」

獣害対策の全てです



不作付けは増えてきたが、作付けしたい農地の獣害はゼロに



以前は全滅で収穫できた人がいなかった。今は田んぼの被害、掘り返しなくなっている

地域主体の獣害対策が 成立する要因やプロセスは？

共通する特徴がある

獣害対策を成功させ得た集落に長時間のインタビュー



皆が困っている問題をどうにかする

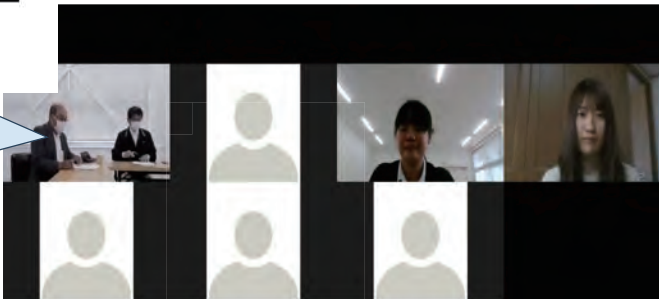


■ 獣害は、集落皆の問題なので、(防護柵も捕獲も)皆で協力し合おう

獣害対策を成功させ得た集落に長時間のインタビュー



地域内での
「共有」



集落の獣害という課題を皆に共有する

獣害対策を成功させ得た集落に長時間のインタビュー



やるなら地域
ぐるみで



■ みんなで協力し合うことで、地域の団結力も出てくる

獣害対策を成功させ得た集落に長時間のインタビュー



柵補修のタイミングという正しい「**技術**」



柵の補修が適期にできている。研修会の影響。

獣害対策を成功させ得た集落に長時間のインタビュー



やったらできるといふ「**成功体験**」



やったら麦って穫れるんや。成功体験。

獣害対策を成功させ得た集落に長時間のインタビュー

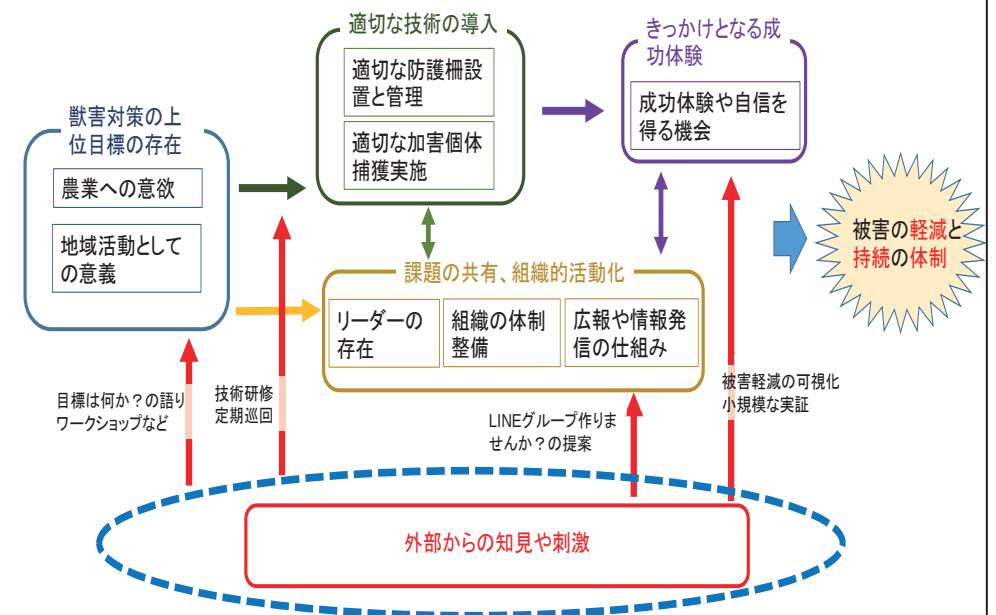


そもそもの「**目的**」



やっぱり地元の米が食べたいから

獣害につよい集落の成立プロセス(山端2024)



どこかに「転換点」が

加西市畑集落 (畑第一営農組合)

加西市畑集落の被害軽減までの出来事とモチベーションの模式図(山端の参与観察による)

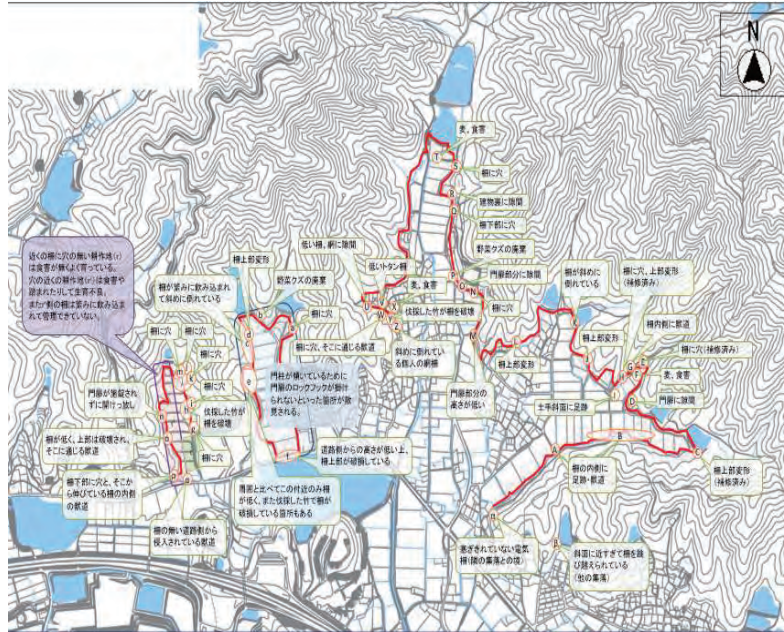


市の担当者は現地で課題を把握

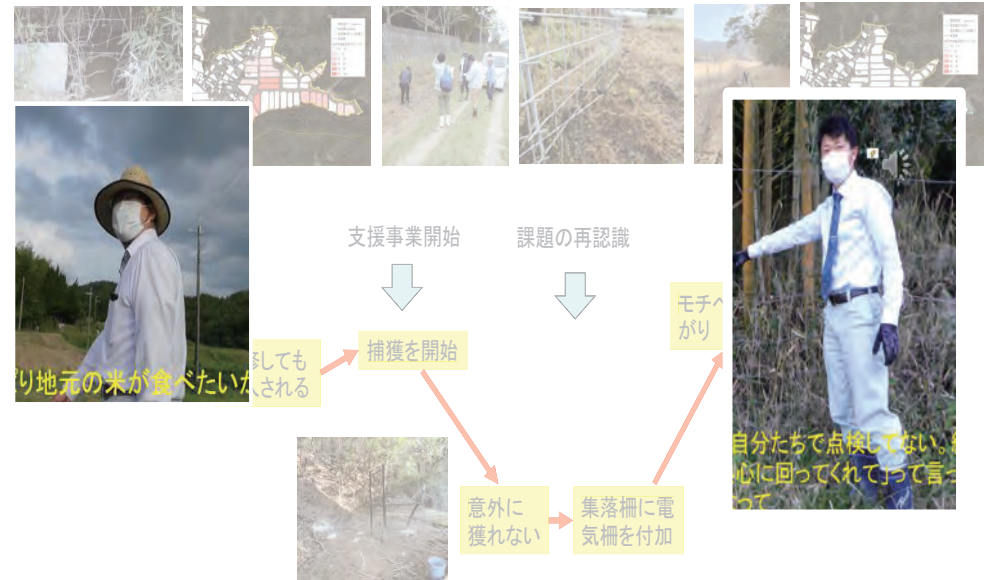


全部見に行ってみたら、畑1(集落は)自分たちで点検してない。
組合長に出会って、「市役所はこうやって熱心に回ってくれて」って言う
てくれるようになって

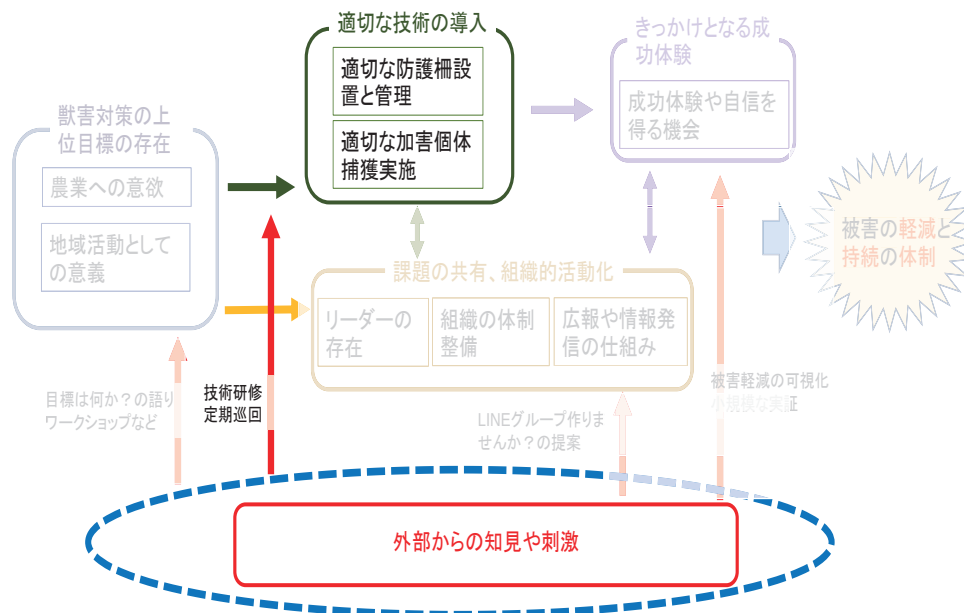
市の担当者は現地で課題を把握



加西市畑集落の被害軽減までの出来事とモチベーションの模式図(山端の参与観察による)



獣害につよい集落の成立プロセス



穴栗市皆木集落

箱ワナ、くくりワナも用いた
集落主体の捕獲モデル

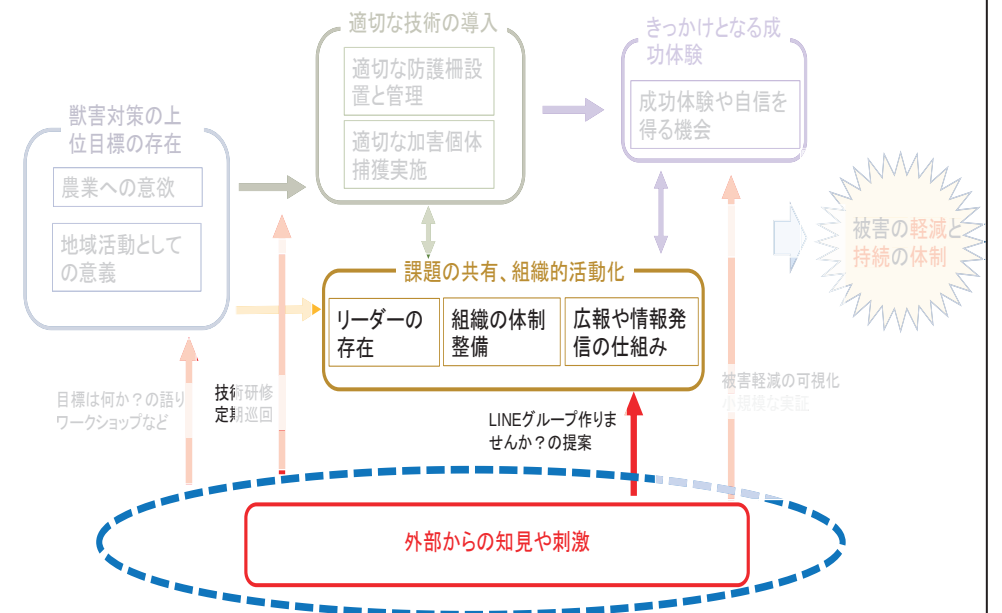
中央市皆木集落の被害軽減までの出来事とモチベーションの模式図(山端の参与観察による)



中央市皆木集落の被害軽減までの出来事とモチベーションの模式図(山端の参与観察による)



獣害につよい集落の成立プロセス



「情報を共有して盛り上げていくことも重要。最初はこんなになるとは思ってなかった。どうせ戻すほみになるだろうと思っていた。ある人にだけ負担がかかる結果になると思ってたけど、そうでもなかった。」

成功した事例にはそれぞれの皆さんから見た「転換点」があるはずです 基調講演

『大町市における獣害対策のための取り組みと集落との連携について』

講演者：長野県大町市役所農林水産課／ 傳刀 章雄 氏

取組事例紹介

『支援者からみた獣害対策の転換点』

講演者：合同会社東北野生動物保護管理センター 代表／宇野 壮春 氏

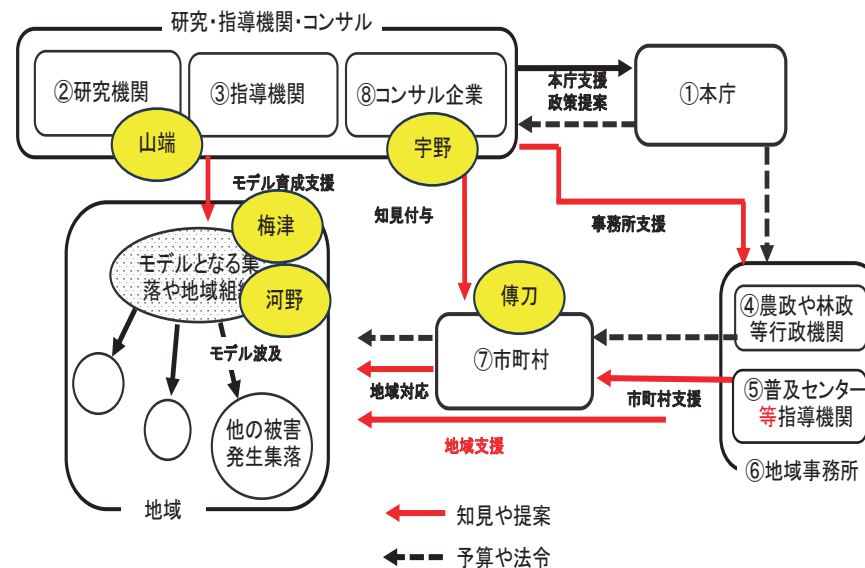
『山形市風間地区における有害鳥獣対策のための取り組みと地域民の連携について』

講演者：風間地区有害鳥獣対策協議会／ 梅津 茂 氏

『集落営農で取り組む獣害対策』

講演者：農事組合法人 ファーム・円心 代表理事／河野 雅晴 氏

「獣害につよい集落」づくりを進め得る行政組織の模式図(山端2020改変)



その後ディスカッションを



